

KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

名匠

小葉保司

こぐすり

やすじ



小葉 保司

東京駅の丸の内駅舎では、大正三年の創業時事の姿を保存・復元するための工事が進められています。すでに、復元を終えたドーム屋根の先端部には、小葉保司さんの職人技が生かされています。

「特殊な成形だったので、何度も何度も試作を重ね、とても苦労しました。納品したときの安堵感は、今でも忘れられません」と百年先まで残る仕事を成し遂げた充実感を笑顔で話します。

小葉さんは、建築用語で「役物」と呼ばれる特殊な形のもの数を多く手がけています。

設計図をもとに、素材をカットし、叩いて成形していく作業。リズムカルで力強いハンマーの音とともに、平らな板が少しずつ曲面を成していきます。

使用する素材は鉄、アルミ、銅、ステンレスなど、さまざま。それ

ぞれの特性を知り尽くさなければ、思い通りの3次元の曲線や曲面に仕上げることは出来ません。長年の経験で習得した独自の手加工で、求められる形に仕上げていきます。

「若いときの修行が、今の自分を支えています。先輩たちにしっかり基礎を仕込まれました。初めて仕事を任されたとき、自信が持てました」と笑顔で話します。

複雑で細かいサイズ指定の注文。試作ばかりでムダを出しては、利益につながらない。正確な製品を、いかに効率よく製作するかが問われます。

小葉さんの手がける作品は、あちこちで見ることができます。皆さんも、どこかで出会えるかも知れません。

◆ 建築金物製作